令和５年度　大田区立池上小学校校内研究　成果報告

研究主題

「思いや考えを伝え合い、協働して学習する児童の育成」

～「読むこと」の学習における発問の工夫～

前年度までの話し合いを中心とした研究の成果を受け、今年度は国語科の読みの学習を軸に協働的な学び合いができる授業づくりをテーマとして１年間、校内研究を行ってきた。

授業展開と発問の工夫

＜取り組み内容＞

		１年	２年	３年	４年	５年	６年	五組
研究授業での工夫	授業展開	・モジュール活動の導入（「ひばり」音読暗唱） ・単元のゴール設定「音読劇発表会」	・単元のゴール設定「音読劇発表会」 ・小グループでの役割音読	・単元のゴール設定「9歳の豆太を想像して、物語の続きを考えよう」 ・根拠の叙述当て（クイズ）	・スクープメモの活用 ・伝え合う場を設定	・学習用語の共通理解を徹底 ・学習展開をパターン化	・モジュール活動の導入（リズム漢字／詩の語り） ・学習用語の共通理解を徹底 ・学習展開をパターン化	・５グループに分ける。 ・学習展開をパターン化 ・個に応じた課題設定 ・実感を伴った学習（動作化、具体物、自分の言葉で発信） ・音読を繰り返し、正しい言葉を耳から入れる。
	発問	・書く場所を限定し、一人の子の意見で決めず全員の意見を出してから１つにしぼり書くよう促す	・挿絵や吹き出しを利用し、なり切って気持ちを書く。 ・なりきって、音読しているところを伝え合う。	・単元のゴールの設定「9歳の豆太を想像して、物語の続きを考えよう」 ・勇気メーターの活用	・単元の問いの設定「ごんはどんなきつねだったのか。」	・一貫した発問の設定「たずね人はだれのことか。」 ・叙述を絞った発問の設定	・適切な補助発問の設定や効果的な切り替えし発問	・短く分かりやすい指示 ・ゆさぶりや確認の発問 ・発問を板書する。 ・挿絵やワークシートを掲示する。
	教材教具	・お面や赤白帽子 ・拡大ワークシート（グループ用）	・なりきり名札 ・ワークシート	・勇気メーター	ごんぎつね新聞とスクープメモ	・スクールタクトとノートの使い分け		・実態に応じたノートやワークシート（選択肢付き、マスや枠だけ、なぞり書き、手本掲示など）

＜成果＞

〇単元の開始時点から単元のゴールを設定したことや、内容を限定し精選した発問をすることで、子供たちが叙述を根拠にして、自らの考えに自信をもって話し合いをすることができるようになった。グループで自然と話し合いができるようになり、他教科でも話し合い活動が生かされている。（全学年）

〇学習活動をパターン化したことで、どの児童も見通しをもって学習に取り組むことができていた。（全学年）

〇考えを数値化（勇気メーター）したり、視覚化（スクールタクト）して児童自身が互いに共有することで、友達の考えに興味をもち、自らの考えと比べて広げたり深めたりすることができた。教師側も考えの流れが把握しやすかった。

〇お面や、名札、吹き出し等でなりきって気持ちを想像しながら音読したことで、意欲をもって学習でき、話の内容や心情もより想像しやすくなった。（低学年）

〇対話での交流活動を通して、一人一人の感じ方に違いがあることに気付くことができた。

〇登場人物の気持ちの変化を場面の移り変わりと結び付けて、具体的に表現することができた。叙述に即した根拠をもとに、自分の考えを相手に伝える力が向上した。（中学年）

〇互いの考えを聞き合うだけでなく、そこから自らの考えを広げたり、深めたりできるようになり、視点に沿って読む力が向上した。（高学年）

〇・生活単元学習とつなげ、実際にカブを作ったことが児童たちの意欲につながった。「五組版大きなカブ」のお話創作のため、話す必然性が出てきた。（五組）

〇学び合いを楽しいと感じている児童は多かった。

語彙を豊かにする常時活動

＜取り組み内容＞

	低学年	**中学年**	**高学年**	**五組**
常時活動	・音読詩集の暗唱 ・週末の日記	・国語辞典の活用 ・イメージマップ	・けテぶれ学習（５年） ・詩の語り（６年） ・リズム漢字 ・モジュール学習	・しりとり ・頭文字ゲーム ・給食クイズ

＜成果＞

〇毎時間グループでしりとりをしたことにより、しりとりのルールも身につき、出てくる単語が増えた。（五組）

〇イメージマップを活用したことで、文章を書く前の準備の仕方（言葉集め）が身に付いた。

〇音読詩集の暗唱や語りは、言葉を覚える以外に、詩を書く授業の際にも、短く、リズムよくということがイメージしやすくなり、良かった。

〇国語だけでなく普段の授業から、「楽しい」「うれしい」「おもしろい」などの表現を使わずに、楽しさを表現させることを意識することができた。

〇モジュールの「オノマトペ」活動で、「表現」の仕方に興味をもち始めた児童が増えた。

〇国語の授業だけではなく、朝の会のスピーチでも、質問をしたり答えたりというやりとりができるようになってきた。

〇低学年の詩の暗唱を高学年が聞いてあげる活動は、意欲付けだけでなく、兄弟学年で仲良くなり、他学年交流という面でもとても良い効果があった。

〇辞書を購入したこと、漢字指導で国語辞典を活用する場面を意図的に作ったことで、意味調べが早くなり、辞書に親しんでいる様子が見られた。

来年度に継続していきたい学習

➡**来年度からも３年時にマイ国語辞典を購入させ、積極的に使っていく。**

➡言葉は知るだけではなく、それを言葉に出して覚える活動があって初めて身に付くものであることが改めてわかったので　来年度は、可能であれば**全学年で詩の暗唱に取り組み、学年が上がるにつれて朗読→語りと段階を上げていけるとよい。**

➡**低学年と五組はペア、中学年はトリオ、高学年はグループや全体での学び合い活動は継続していく。**

➡単元を通した問いや単元のゴールなどを設定したり、学習パターンを統一したりすることで**児童自身が見通しをもって取り組める学習活動**を設定する。

➡今年は話し合いを中心に指導してきたが、語彙の獲得は話し言葉だけでなく、書き言葉にすることで、より確実に定着していく。来年度は、**書く指導**にも力を入れたい。